

一年学年だより

No. 2 【5月号】

令和3年4月30日発行

みなさんが松山中央高校に入学して、早1か月になろうとしています。学校生活にも少し慣れてきた頃でしょう。また、風製作や部活動など、さまざまな活動において、同級生や先輩たちとの親睦は深められていますか？

さて、この「一学年だより」では、1学年の学年主任・担任・副担任の先生が、月毎に代わりながら、みなさんにメッセージを届けます。前回の4月号は学年主任でしたが、今回は101HRが担当です。

しあわせは いつも自分のところがきめる

これは、「相田みつを」さんの詩です。私が社会人になった頃に、東京にある「相田みつを美術館」で額入りの詩を購入しました。それから約15年、詩は場所を変えながら、我が家に飾られてきました。嬉しい時、悲しい時、しんどい時など様々な気持ちの中で、毎日のように詩を見ました。そして、詩を見るたびに**なぜ、しあわせはいつも自分のところが決めるのだろう**と思いました。気分だけで幸せを継続させるには難しいからです。そんなことを考え続け、今、この詩からわかったこと—それは

人は なりたい自分になる

ということです。人は自分が本当にやりたい（成し遂げたい）こと、イメージできることに向かって、意識的・無意識的に行動します。本当にやりたいことや成し遂げたいこと等に「しあわせ」があるかどうかは、人それぞれです。しかし、「しあわせ」になりたいと願い、そのために何が自分に必要なのか決めることができれば、人は幸せに向けて行動するのだと思います。これは、みなさんの高校生活においても同じです。高校入学後、みなさんは何を望みますか？これからのみなさんは、なりたい自分に向かって行動していくでしょう。そして、その先に幸せがあるかどうかは、**みなさんのところがきめています。**

(101HR 担任)

「いいえ、私の記録は、私の精神の所産です」

ロジャー・バニスターという人を知っていますか。

バニスターは、陸上競技の1マイル（約1,609m）競争で、初めて4分の壁を破った伝説のランナーです。1923年にフィンランドの選手が1マイルを4分10秒で走り、それまで37年間も破られずにいた記録を更新しました。当時としては驚異的な記録で、これ以上の記録は出ないだろうと言われ、人間が1マイル4分を切ることは不可能とさえ言われました。ところが、31年後の1954年にバニスターがその4分の壁を破りました。

彼が記録に挑んだ時の考え方には興味深いものがあります。大抵の人が困難に挑戦するときに、最初から無理だと決め込んでいる。これでは記録を破る力があっても最後に失敗するだろうと考えたそうです。彼は、人間には不可能と言われた「世界の常識」に対して「本当に不可能なのか」と強く疑問を抱き、練習を積み重ねた結果、4分の壁を破り世界記録を樹立しました。さらに面白いことにバニスターが新記録を打ち立ててから、1年間の間に1マイル4分を切る選手が23人も現れています。1マイル4分を切る力を既に多くの選手が持っていたということです。ただ、多くの選手の中で「きっとできる」と最も強く信じていたのがバニスターだったということでしょう。私がタイトルに書いた言葉は、記者の「あなたの記録は科学的トレーニングの成果ですか」という質問に対する答えです。

1年生の皆さんには、将来への思い、夢、希望を強く思っしてほしいと思います。そして自分の夢に向かって努力する高校生活を送ってほしいと思います。応援していますよ！

(101HR 副担任)